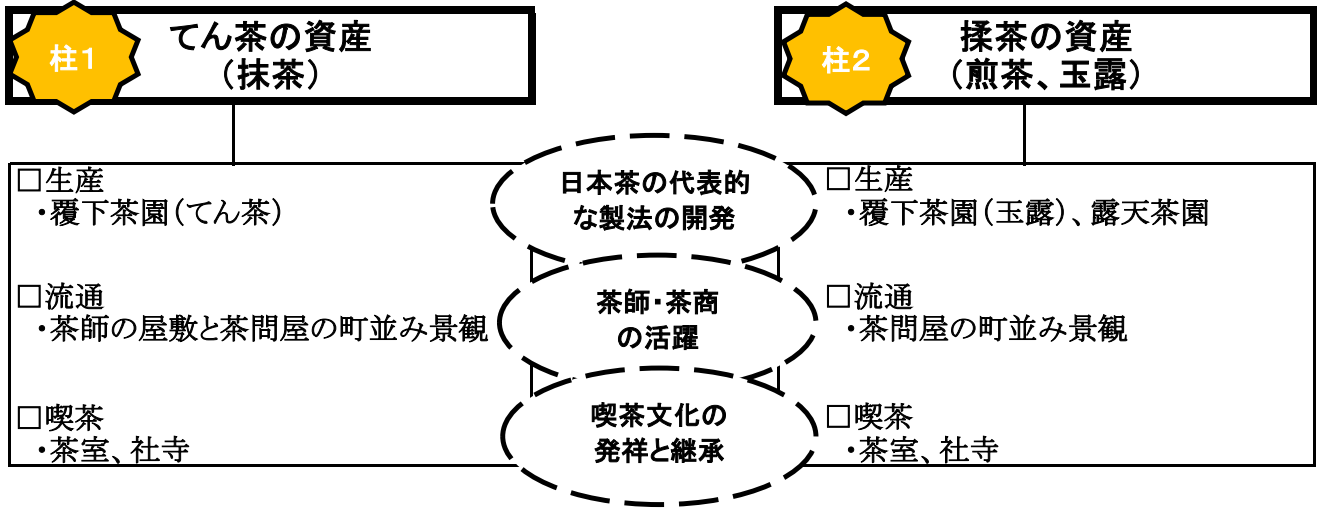


該当する評価基準について(案)

◆資産の名称

日本茶文化の代表的資産群～宇治茶と喫茶文化の発祥と継承の地～

◆構成資産



◆該当すると思われる評価基準

○評価基準(ii)	<p>建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えた、ある期間にわたる価値観の交流又はある文化圏内での価値観の交流を示すものであること。</p> <p>日本文化を代表するものとして発展し世界の喫茶文化に影響を与えている「茶道(煎茶道を含む)」という固有の文化的伝統を表す証拠として、日本人の精神性や美意識を理解する上で重要な例</p> <p>茶室</p>
○評価基準(iv)	<p>歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本であること。</p> <p>日本独自の茶の栽培・製法を開発し、日本を代表する喫茶文化(抹茶、揉茶)の発祥・発展・継承を示す証拠</p> <p>茶農家等と茶畑の文化的景観、茶師・茶商に係る建造物・文化的景観、茶室・社寺</p>
○評価基準(v)	<p>あるひとつの文化(または複数の文化)を特徴づけるような伝統的居住形態若しくは陸上・海上の土地利用形態を代表する顕著な見本である。又は、人類と環境とのふれあいを代表する顕著な見本であること。(特に不可逆的な変化によりその存続が危ぶまれているもの)</p> <p>日本独自の茶(抹茶・揉茶)の栽培・製法を開発し、発祥・発展・継承を示す証拠</p> <p>茶農家等と茶畑の文化的景観</p>
○評価基準(vi)	<p>顕著な普遍的価値を有する出来事(行事)、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連があること。(この基準は他の基準とあわせて用いられることが望ましい)</p> <p>日本の喫茶文化の変遷を端的に示す資産として、その特質を理解する上で重要</p> <p>栽培・製法、茶の湯や煎茶道、伝統工芸品、食文化、建築様式、献茶式や茶かぶき等</p>